



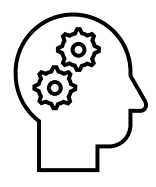
国際教養：国際理解

国際理解とは？

国際教養の三本柱の一つ：寛容性や多様性の理解を身につける

本校独自の教育方針である国際教養は、グローバル化する世界で活躍できるよう生徒の能力を育成するため、さまざまな考え方や主体的に課題解決に取り組む力などを養います。その柱の一つ・「国際理解」では、国際的な観点から課題を見つめます。世界の国々の、そして日本に住む自分たちの社会の在り方や文化について知識を深め、それらの相違点や関わり合いを考えます。国際理解とは、「自国の文化・他国の文化（…）について理解を深める」柱です。（本校HP）

本校で行う、国際理解の柱に関連する活動の中には、国内WC（一年・三年次）、フィールドワーク（美術館や社会科見学）、国外WC（五年次）、そして国際理解講座（二年）などがあります。その他授業や生徒会活動、課題研究などにおいても国際理解（及び他の二本の柱）の視点は意識されています。これらを通し、私たちは異文化への寛容性、多様性への理解を学んでいます。



国際理解講座：活動内容

国際理解講座とは？



国際理解講座は、私たちが二年生のときに取り組んだ、国際理解の柱に関するワークショップやアクティビティの一連です。ゲーム感覚のような活動から、本格的な会議のロールプレイまで、チームワークと協力を要するさまざまな活動がありました。全ての活動においてチームメイトとディスカッションを重ね、この活動はどのような意味を持つのか、意図は何か、現実世界で適応できることは何か、などを考えました。

この講座では、さまざまな文化に関する知識が散りばめられているほか、ディスカッションを通して自分たちの考えを改めたり、無意識を意識に変えたりすることを目的としています。

ワールドマップ

グループに分かれ、大陸ごとに世界の人口、GDP、オリンピックメダル数、HIV感染者数で占める割合を予想した。地域ごとの格差や、意外にもある地域では何かの割合が高かったり、意外に低かったりすることを知れた。

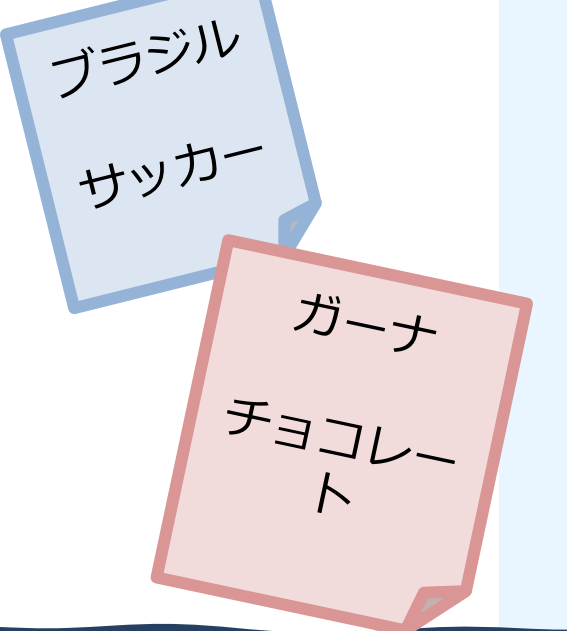


イメージラベリング

世界の国について自分が思いつくことをできるだけたくさん付箋に書く。

クラス全体で地域ごとに付箋を分類し、書かれている内容や付箋の数に傾向はあるかを見出す。

→自分たちが世界の国々に対して持っている偏ったイメージや考えを再認識できた。



ブロックゲーム

班に分かれて同じ数のブロックが渡され、タスクを貫く。タスクを時間内に達成するのが目標。

Phase1

話し合いなし：それぞれの班が目標達成のためにブロックの奪い合いが起きる。

Phase2

話し合いあり：それぞれの班が自分たちの目標を共有し、全班が達成できる形を目指す。→戦争の比喻

目的（=ミッション）の達成のために物（ブロック=食糧、土地、人々）を奪い合う。話し合いをしてみんなで協力すれば、平和に問題解決ができる。

3人のストーリー

まみ：シングルマザーなため弟の面倒をみる。家族仲良し
たかし：裕福で生活に不自由はない。しかし孤独な思いをしている
ハリシャ：学校に行けず、働いている。しかしそれが普通だと思っているため幸せ

まみさん、ハリシャさん、たかしくんの三人の一日のスケジュールが書かれたものを読む

三人の思いや日常を比較して考えたことや気づいたことを書き出す

→幸せとは何か？
→子どもの権利条約



コバルト会議

A国の自動車メーカー

→ A国が掲げるCO₂削減のために電気自動車の開発を任せられた！
電気自動車生産のためにコバルトをB国b市から輸入したい

B国b市・市長

→市長選挙のために市民の支持がほしい！

コバルトは重要な収入源だが公害や劣悪な労働環境に市民は反対している

B国b市・採掘会社

→市から補助金をもらい採掘を任せられた！
現在二つの採掘場を持っているが労働環境は劣悪



調整員（司会）と共に、それぞれの立場約2名ずつ、計8人で
①コバルトの新規採掘場をB国b市にいくつ作るか
②予算を採掘場の開発、ろ過装置の設置、労働改善の何に使うかを、それぞれの立場が持っている予算や採掘量を考慮しながら議論する



学び・得たこと・難しかったこと

国際理解講座の活動を通し、私たちは今まで自分たちの世界に対する考えが限られた知識をもとにしたものだったということを再認識することができました。例えばイメージラベリングやワールドマップを通し、ある地域に対してある印象を持っていたけど、実はそれが誇張されたものであったり、現状は全く異なるものだったりすることがありました。また、自分たちの帰国子女という立場から、自分がいた国に対する自分の認識と一般的なイメージの相違点を知り、「人びとのイメージはその人の知識や経験に基づく」ことを体感しました。

ブロックゲームやコバルト会議を通して、私たちは協力することの大切さを実感することができました。論理的で冷静な話し合いがなくては、混乱や争い、誰かの損につながる、そんな状況が教室の中で再現され、議論、そして異なる意見を尊重して聞き、お互いに譲歩することこそ、さまざまな国際的な課題の解決に必要な不可欠だと思いました。

あくまでも小さな教室で行ったアクティビティの一連ですが、これらの活動は世界的に起こっていることを再現しており、私たちの中に潜在的にあった偏見などを引き出すことができました。どうしたら異なる考えの人びとがともに共通する課題の解決に歩めるのか？国際協力、そして人と人との協力には何が 필요한のか？国際理解講座を通して、そんな問いが示されていたと思います。

ATLとのつながり

批判的思考スキル

与えられた課題を多様な視点から見て、どうすればミッションを達成できるかを考えることができた。さらにワールドマップなどでは知った情報をもとに様々な視点から見て情報同士でつながりはあるのか、現代の課題について考えることができた。

例えばコバルト会議ではどうすれば一番平和的な解決ができるのか市民側の視点、企業側の視点、世間的視点、など数多くの視点を使うことができた。

コミュニケーションスキル

与えられたミッションをグループの人たちとコミュニケーションをとって考えを共有することで課題解決に繋がった。さらに考えを共有することで新たな視点が埋まり、自分の考えが深まった。例えば3人のストーリーでは私にとつての幸せはこうだと思っていたけど、他の人と意見を共有することで新たな幸せの形に気づくことができた。

創造的思考スキル

特にブロックゲーム、コバルト会議、イメージラベリング、そして3人のストーリーで発揮されたスキル。新しい発想やアイデアによって難しい課題を乗り越え、新たな視点を獲得することにつながった。ブロック会議ではどうすれば全チームのミッションを自分たちが持っている資源で解決できるかを普通では解決できない方法で解決したので創造的思考スキルを使用できた。

協働スキル

どれもこれも一人では成り立たない活動であった。他の人と取り組むことで考えが深まり、同時に新たな視点を獲得することができる。例えばイメージラベリングは一人でも案を出すことは可能である。けれど他人の意見と比較できないため世間一般の考えを知ることはできないし、違いを知ることもできない。